

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



SeraphicGate 5

XENOGears FAN BOOK



「やめてえ——ッ!!
セラファイアーに近寄らないでッ!!」

メルカバー突入後、ギアが大破し機外に放り出され、皆ともはぐれてしまったセラファイアーは、ウェルスの成れの果てとなった肉塊の化物共に襲われていた。彼らに捕まれば生きてきたまま生気を吸りとられた挙げ句に喰われてしまう。セラファイアーは伸びてくる触手を必死に振り払って抵抗する。

特殊変異ウェルス群

かつてソイレントシステムで一部の変態科学者たちによって生み出された特異なウェルスの成れの果て。メルカバーに取り込まれた後、増殖・変異・融合を繰り返して独自に進化し内部の一角に巣を造った。元々性的拷問用に調整されていた為、他者の血肉を求める代わりに女性の体液を媒介して生気を吸収する習性を持つ。性的に興奮した状態の生気を嗜好し、餌食になる対象は性感をひたすら高められた状態で生きてきたまま捕食される。ウェルスの体液には強い催淫性があり、激しい感度上昇・発情・覚醒作用をもたらす。

粘液で滑りついた触手が何本もセラフイータの身体を這い回り、細さに見合わぬ力で両手両脚を縛り上げて彼女の身動きを瞬く間に封じてしまった

「やだッ くいこんでるウツ
こすっちやダメエ——ツツ!!」

股間の下には蔓状の触手が潜り込み前後に激しく動いてセラフイータの秘裂を何度も擦り上げた
徐々に固くなった陰核が巻き込まれ強烈な刺激に何度も身を震わせる

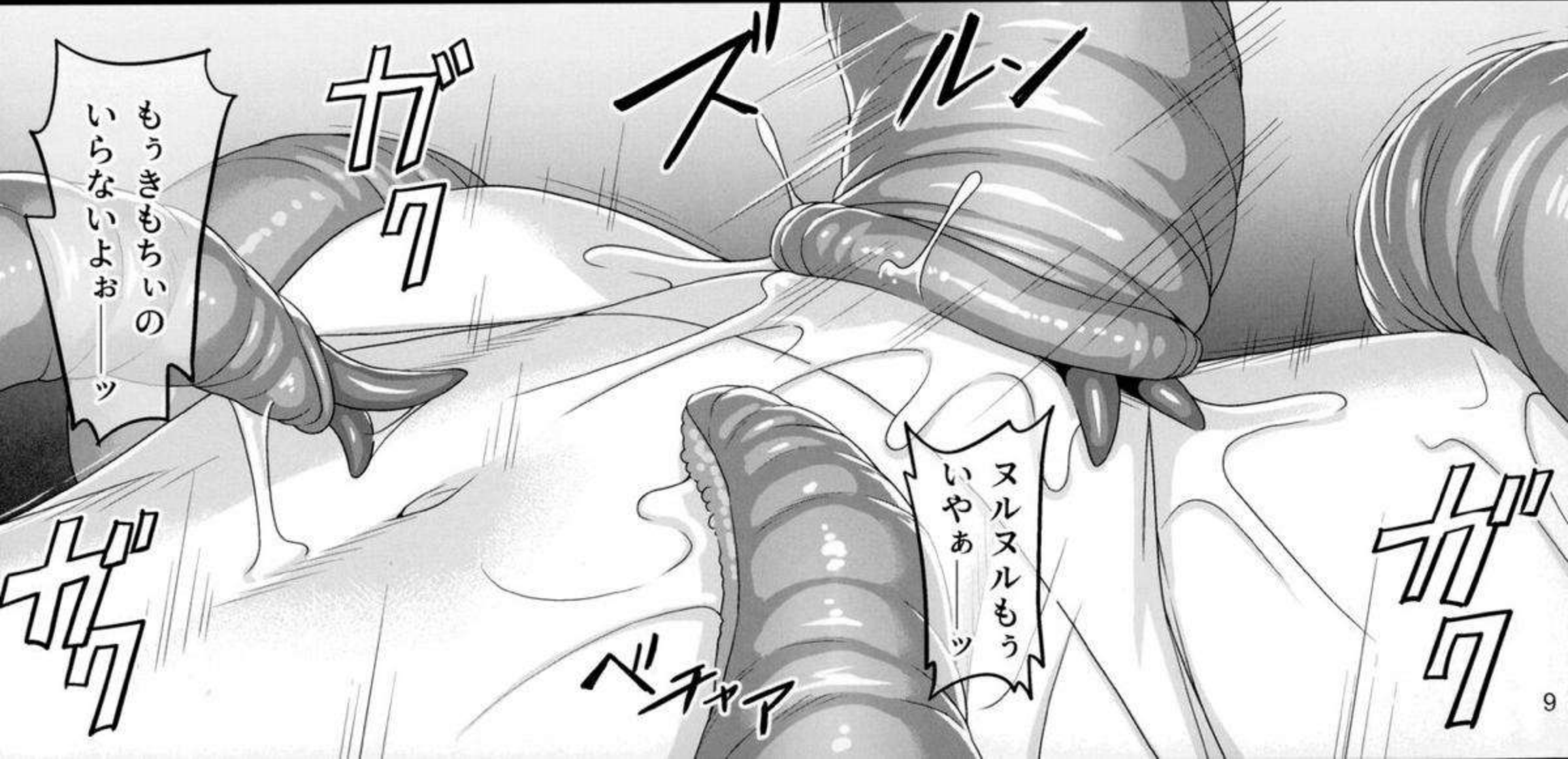
彼女のたわわな乳房は触手に締め付けられ大きく形を歪ませて、絞り出された乳頭が痛々しく震え出す

四肢を拘束され仰向けに吊り上げられたセラファイータに
大量の触手が群がる

それらの口からは更に無数の細い触手が
生えており、先程まで塗りつけていた
催淫粘液の涎を垂らしながら、突き出された
彼女の豊満な肢体に近づいていく

触手達は一斉にセラファイータの身体にしゃぶりつき
首筋、脇、肩、乳房、腹、股間、太腿などあらゆる箇所を
粘液まみれにして舐め回していった

「ひッ!! や…やめてッ
もうそれ近付けないでッ
…ッああ!!」



触手達の苛烈な愛撫責めと粘液の催淫効果でセラファイータはあつという間に絶頂に打ち上げられる
殊更目立つ敏感な突起は特に集中攻撃に晒されていた

埋没していた乳頭は強烈なバキュームで吸い出されイボだらけの舌で転がし回される
股間もブラシ状の触手で勢いよく擦り上げられ包皮を剥かれた陰核は催淫液を塗りたくられて徹底的に磨き上げられる

「んっ……んっ……んっ……ぽおっっ!!
きちゅいいッ ゆるしてえッ
もう……とけちゃうよおっ!!」

終わりの見えない強烈な快樂責めにセラファイータの精神は着実に蝕まれていった



セラファイ…のッ

あッ

あッ

く…
へりりひゅッ

バカになりゆうッ!!



おまたッ
とけるうううッ

あッ

きちゆいッ
きちゆいのイヤッ



回から大量に飲まされた催淫液が全身にまわり
すっかり上気した顔のセラファイータは、なおも
ウエルス達の激しい愛撫の餌食となっていた

「ああ…ッ あたまッーヘンになりゆッ
こんなッ…たくさんッーッ
セラファイッーしんじやうよおッ!!」

陥没していた乳頭は触手に引きずり出されたうえに
無数の繊毛の生えた口でしゃぶり回され、今では
すっかり勃起しその存在を自己主張している

下半身では大きな刷毛状の触手が股間の
前後をなぞり上げ、延々と湧き上がる甘い
痺れが幾度も彼女を絶頂へと導いていった

巨大な二体の刷毛状ウエルスがセラフイータを前後から押しつぶし
催淫粘液にまみれた大量の管足が彼女の全身を覆い尽くして蠢く

管足で埋もれた彼女の乳房は内部で無数の繊毛による愛撫の洗礼を
受け、尖りきった乳首もひたすらに「ン」き上げられていた

股間では剥きあげられた陰核の表面を
繊毛が何度も前後に走り抜け、秘部全体を
粘液まみれにしながら絶えることのない
快感を彼女に送り込み続けている

手足を縛られウエルスに抱きつく格好となった
セラフイータは無理やり与えられる絶頂にただ
身を震わせることしかできない

「イグッ ぐおッ あ——ッッ
セラフイ——もう……いけないのおッ
いや——ッ やめ……あ——ッッ」

両手両脚を縛り吊るされ、宙空に磔になったセラファイータは、惜しげもなく放り出された自身の弱点を大量のウエルスに嬲られていた。だらしなく垂れ下がった乳房の先端は、椀状に開かれた触手口に収まり溜まった催淫粘液に乳首ごと浸けられながら無数の触手で揉みシゴかれる。股間部にもイソギンチャク状に触手を生やしたウエルス達が殺到し、彼女の性感を更に引き出そうと暴れている。

「ッ!! ——んぎッ——こ…ッ—こんなのもリッ
いぐッ!! ——おッ!! ——あ——ッッ!!」

今迄の執拗な愛撫責めによって全身の感度を出鱈目に高められていたセラファイータはあつという間に屈服した。しかし幾ら泣き喚いてもウエルス達は容赦をしない。許しを乞いながらイキ狂う彼女を無視して執拗にその身体を弄くり回し続けた。

今まで殆ど手付かずだった両穴の奥を、凶悪な形状の触手に
容赦なく抉られてセラファイターは悶絶する

コブやイボが内壁を巻き込みながら抜き差しされるたび
電流のような痺れと快感が尻尾から背骨を伝って進った

「あうッ あうッ
——おづッ」

激しい二穴責めで絶頂から降りてこられないセラファイターは、
激んだ瞳で宙空を見つめたまま獣のような声を吐き出して
乱れまくる

掘削機のような触手のピストンによりセラファイターの
両穴は徹底して開拓される

大量の催淫液を塗り込まれた結果、両穴は狂いそうな
ほどの快感を生み出す蜜壺に変貌させられていった



ウエルス達の二穴責めはより激しさを増していった

逆さ吊りにされたセラファイータは両脚をギチギチに縛られ
固定された両穴に触手の手加減ない突き込みが襲いかかる

ピストンの衝撃で何度も下腹部の輪郭が歪み、愛液や粘液の
飛沫があたりに飛び散っていた

「あがッ おおッ
お……ッッ」

上から垂れてきた汁で顔をグチャグチャにしながら
苦悶の表情でセラファイータは繰り返しいき続ける



激しいイキ疲れによって意識朦朧となったセラフィータから、更に反応を引き出そうとウエルス達は彼女の秘部を弄くり回す。膣口の接合部に絶えず催淫液を噴射しながら内外の性感帯を執拗に刺激し続け感度を引き上げていく。

包皮を捲られて根本まで剥き出しになった陰核を撫で回し、イボの生えた触手で膣内の敏感な天井を引っ掻き回しながら、最奥の子宮口を何度も叩いていく。

「おッ

おッ

んおおおお…ッ」

肺から搾り出すような濁った喘ぎ声を吐き出し、セラフィータは無理やり絶頂に押し上げられる。呆けた顔で幾度も絶頂に咽び泣く声色からは、以前の快活な彼女の面影は完全に失われていた。



口から泡を吹き、眉間にシワを寄せ、眉毛を歪ませ、
何度も重ねられた絶頂の波が蓄積していくかのように
彼女の形相はひたすら凄惨なものになっていく

まんぐり返しで身体を固定されたセラファイタの
下腹部に逃げ場のない衝撃が延々と叩き込まれる
抜き差しの度に接合部から大量の飛沫が飛び散り
イキ狂って醜く歪む彼女の顔面に降り掛かっていく

『あがッ おおッ
…ンお…ッ』

快感神経の塊と化した蜜壺を滅茶苦茶に抉り回わされた
セラファイタは気を失うまで絶頂地獄で廻りモノにされた



失神したセラファイータを大型のワーム型ウエルスが呑み込み
内側にびっしり生えた繊毛で上半身を丸ごとしゃぶり尽くす
露出した下半身には芋虫型のウエルスが集り、両脚を大きく
開かされた彼女の股間部を吻で啄むように弄んでいる

芋虫の無数の吻が勃起した陰核や蜜で溢れる秘穴を奪い合うように
吸い付き舐め回し、甘噛を繰り返す

「んごおツ——おツ!? おほおツツ」

腰が跳ね上がる程の快感でセラファイータの意識は再び浮き上がり
即座にイキ地獄に叩き込まれ悶絶する





気絶と覚醒を繰り返しながらの絶え間のない
連続絶頂で、セラファイータの脳髄は灼き尽く
され、思考も最早ろくに形を成していなかった

全身の敏感な突起を徹底的に磨き上げられ
穴という穴を催淫液漬けにされて掻き回される

「ぎゅッ——ひぎゅッ
んぎゅ……んぎゅッ!!」

四肢を触手に絡み取られて完全に身動きを封じられたセラファイータは
狂ったような嬌声をあげて全身を痙攣させながら幾度もアクメを極め
ウエルスたちが飽きて満足するまで休みなくひたすらイキ狂い続けた

十数時間後——、弄ぶことに飽きたウエルス達に
放り出されたセラファイータは見るも無残な姿と
成り果てていた

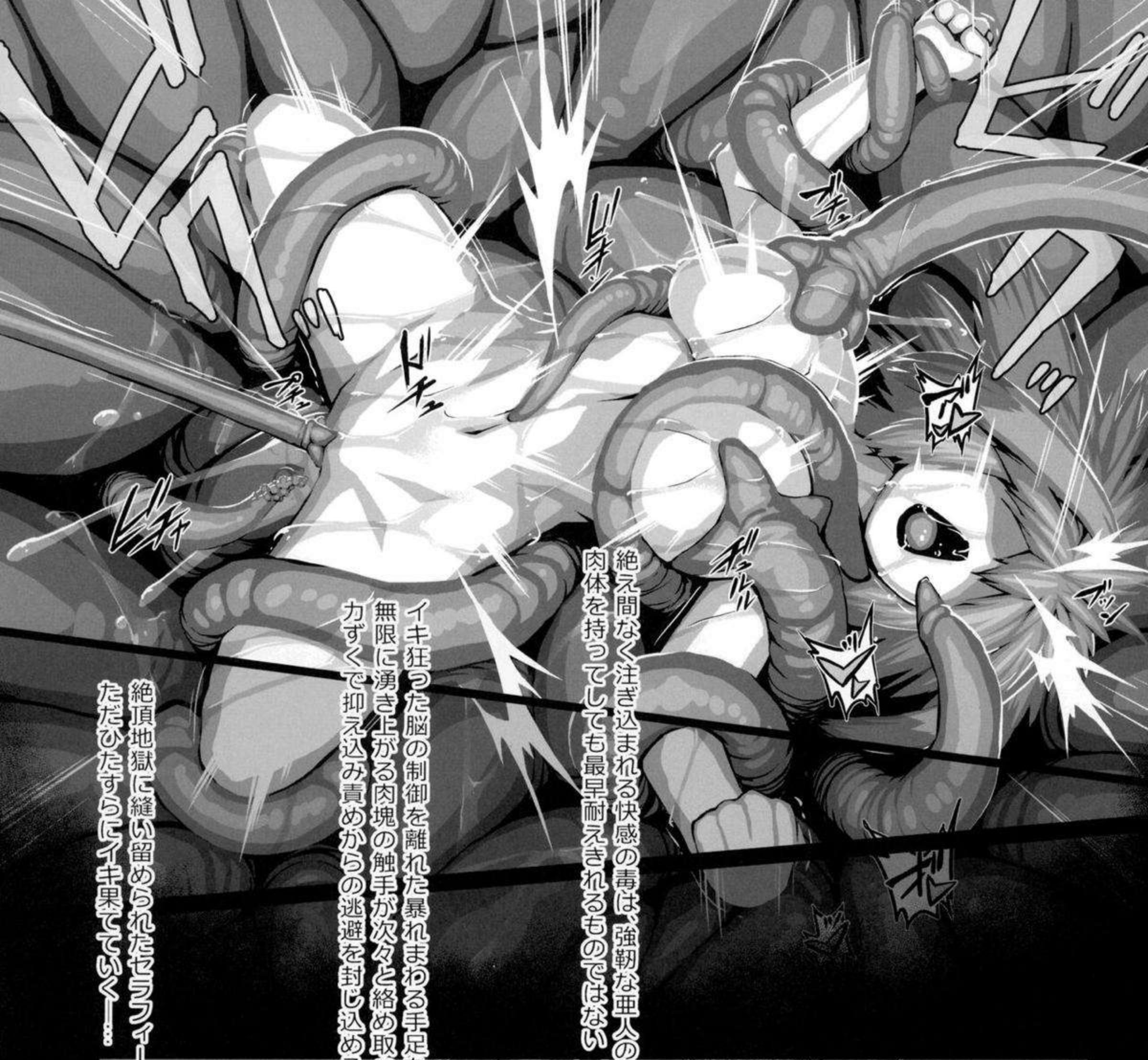
散々生気を食い尽くされた彼女の肉体は
淫靡に変質し全身余すことなく性感帯に
変質させられていた

体中の穴という穴から様々な液体を
垂れ流し、異常に肥大した乳首と陰核は
痛々しいほど尖り立っている

小型のウエルス達が既に死に体な状態の
彼女に群がり性的に食い散らかされた
突起や穴を弄り回す

セラファイータの意識は既に無くも残り火のような快感が何度も
体中を走り回り、四肢を不規則に震わせる水音が辺りに響く

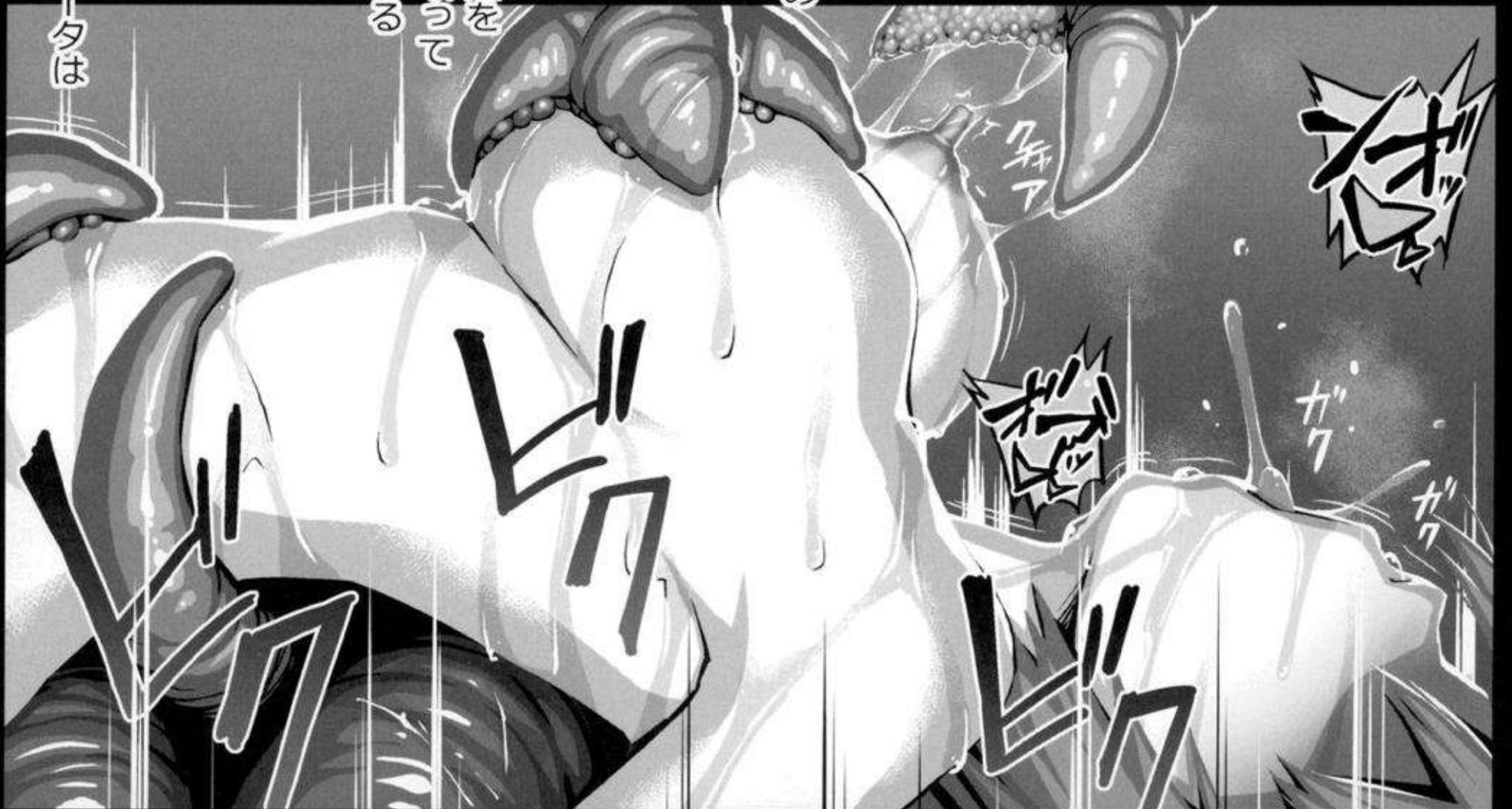
その音と雌の匂いに近づいていった
彼女に近づいていった



絶え間なく注ぎ込まれる快感の毒は、強靱な悪人の肉体を持ってしても最早耐えきれぬものではない

イキ狂った脳の制御を離れた暴れまわる手足を無限に湧き上がる肉塊の触手が次々と絡め取って力づくで抑え込み責めからの逃避を封じ込める

絶頂地獄に縫い留められたセラファイータはただひたすらにイキ果てていく……



彼女が果て続けて数日後——完全に絞りカスとなったセラファイータは
未だ飽きられることなくウエルス共の慰み物となっていた

抵抗する気力を無くし喘ぎ声を出す体力さえ失った肢体を肉塊に預け
全身を満遍なく愛撫されて彼らのされるがままとなっている

ウエルス共は例え獲物が正気を失おうとも手を緩めず
あらゆる手段で快感を絞り出し生気を啜り続けていく
肉塊に押しつぶされたセラファイータは生ある限り
終わらない絶頂にただ震え、蠢き続ける……

【あとがき】 ■この度は本書をお手にとって頂き、まことにありがとうございます。今回で5冊目のセラフィー本となりました。久しぶりにむっちりボディ成分を補給できて私も描いていて愉しかったです。■今回もセラフィーが触手に滅茶苦茶されているわけですが、毎度あまり代わり映えしない内容で申し訳なく思います。毎回、その時々自分のマストなエロを出力するのでシチュに多少の差異はあれ、似たりよったりな感じになってしまうのはどうしようもないんですよね…。色々工夫してマンネリにならないよう努力はしていますが、ある程度はどうかご容赦していただけると幸いです。■昨今の予断を許さないコロナ禍の中、次のコミケがどうなるかは定かではありませんが、また次回も新刊携えて無事イベントに参加できることを祈っております。皆様もどうかお身体にはお気を付けください。(Jacky)



奥付

Seraphic Gate 5

発行日 2022年8月14日
発行 AERIAL RAVE
発行人 Jacky
印刷 (有)ねこのしっぽ

<http://www.aerialrave.com>
jacky@aerialrave.com

本書を許可無く複製・転載することを禁止します。
成年向けにつき、18歳未満への貸与・譲渡はご遠慮ください。



AERIAL RAVE
2022.8.14